

資料室だより 154

ヴリーゲン氏の寄贈からユニークな書を少しご紹介します。

***Les Antiennes d'introit du chant Romain; Compares a celles du Gregorien et de l'Ambrosien**

By Alberto Turco 、 Solesmes, c1993

グレゴリオ聖歌のパレオグラフィカルな研究書のなかでもこれは古ローマ聖歌をイントロイトゥス（入祭唱）に関して比較研究しています。そしてミラノ聖歌も古ローマと同列に比較しているのが大変興味深いです。グレゴリオ聖歌を勉強しておられる皆さんはローカル聖歌にはあまり目がいかないかもしれませんが、ガリア聖歌、モサラベ聖歌、ミラノ聖歌において典礼のローカリティを比較しておくのはいい勉強になりますし、古ローマ聖歌は後のカロリング時代以降のグレゴリオ聖歌との連続性において視野に入れておくべき分野です。当資料室にも Monumenta Monodica Medii Aevi のシリーズのなかにブルーノ・シュテープライン編纂の Die Gesänge des altrömischen Graduale という巻があり、古ローマ典礼のミサ固有唱、行列聖歌、アンティフォナ、キリアーレ、セクエンツィアを所収しています。

***J.Gelineau: Messe Responsoriale**

Paris, Musique & liturgie c1957

作曲者のジェリノー師は1920年生まれのイエズス会士です。師は「4～5世紀のシリア教会における詩編音楽」で学位をとります。主著に「キリスト教典礼における歌と音楽」があり、聖アンブロシウス協会の機関誌「歌う教会」の編集主幹を勤め、音楽に造詣の深い司祭です。当資料室には「私たちのミサ」という著作があります。第二バチカン公会議間もないころの、公会議の精神を生きようとする司祭によるわかりやすいミサ解説です。そしてここに紹介するのは彼が作曲した小さなミサ曲でおそらく小教会で歌われるためのものだと思います。第二バチカン公会議前後はこのようなミサ曲が日本も含めてたくさん作られ、試行錯誤されたことと思います。エリザベト音楽大学学長であったホセ・テホン先生による日本語のミサ・ジャポニカとともに寄贈されました。ハッチハウスに置きますので興味のある方はご覧ください。

杉本ゆり 記